

vol.52-10 (通算 595号)

2023年 1 月号

やどかり

2023年1月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinosato.org/>

定価 50円 (含会費)

2023年 いのち輝く社会へ

増田 一世 (やどかりの里理事長)

冬の枯れ野にひととき鮮やかな黄色の花弁を付けた花が目に残ります。蠟梅ろうばいです。ゆかしさや先見といった花言葉があるそうです。先見とは、1年を先取りして1月から2月にかけて開花するからでしょうか。爽やかな甘い香りも特徴です。

昨今の政治や社会の動き、見過ごせないことが多々あります。障害分野でいえば、12月10日に閉会した臨時国会最終日、いくつもの法案を束ねて、障害者総合支援法や精神保健福祉法が多くの問題を残しつつ、成立。大事な法律をまとめて短時間の審議で成立させるという進め方に疑問を抱かざるを得ません。あまりにも乱暴な法案制定過程です。現在の総理大臣は「聴く」ことをモットーにしていたはずで、言動不一致と言わざるを得ません。

そして、国会終了後の12月16日、新たな「国会安全保障戦略」「国会防衛戦略」「防衛力整備計画」(安保三文書)が閣議決定、反撃能力の保有を決定しました。憲法9条の「武力を行使せず、戦力をもたない」ことがいとも簡単に覆されてしまったのです。障害者権利条約が求める「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という当たり前のルールをこの国の為政者たちは守ろうとしないのです。歴史を紐解くと、戦争は障害のある人をつくりだし、そして障害のある人を生きづらくしてきた事実があります。障害分野に身を置く私たちは戦争への傾斜する国の動きに敏感でいなくてはなりません。そして、平和と自由の大切さについて声を大にして訴えなくてはなりません。

長期化するCOVID-19の感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻、原油高、生活に欠かせない日用品や食材、光熱水費の高騰、格差が広がり、生きづらさを抱える人たちが広がっています。こうした状況の中、私たちは社会で看過できない事象には「おかしい」と声をあげ、一方で「助けて」と声をあげられない人たちの声を聴く努力を重ねていきます。解決の兆しの見えない精神科病院での社会的入院問題をはじめとする精神科医療・保健福祉の構造的問題を解決するために、これらの問題を多くの人たちの共通課題としていくことも私たちの責務であると考えています。

「ある一部の構成員を閉め出す社会はもろくて弱い」これは、国際障害者年の前年に出された行動計画の一節です。蠟梅の花言葉にちなんで「先見」の目を養い、誰のいのちも等しく尊い、そんな社会の実現に努力を重ねていきます。

